



# わかやま

和歌山県精神保健福祉センター

No. 53  
2012年11月

社会福祉法人一麦会(麦の郷)  
理事 柏木 克之

## 「生活困窮にある人達の就労支援について」

今年の4月より厚生労働省・社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」の特別委員として、今生活困窮にある人達が経済的困窮と社会的孤立から脱却し、地域社会に参加しながら自立できる支援計画を検討しています。この部会での生活困窮者とは、障害福祉サービスを受けていない人、長く就労を経験していない人等が対象ですが、我が法人の活動は障害者・高齢者・引きこもり・ニート等、生きづらさを抱える人達全てが対象です。



私は企業で22年間勤務した後、福祉施設で12年間、障害のある人達の仕事おこしを実施してきました。自立にはその人の特性に合った仕事が必要です。また福祉的支援のある職場環境が要ります。地方の厳しい経済状況の中で、そのような仕事と職場を見つけるのは簡単ではありません。国家財政が危機的な状況にあり、地方経済が縮小していく中で、公共事業や企業誘致による雇用機会の創出は現実的には難しいと考えています。自ら仕事をおこしていかなくてはなりません。私達は12年前より「地域資源循環型共生事業」と銘打ち、地域の農産物を活用した複数の農産加工製造業を創業してきました。そして農業に参入し農産直売所を開設して、福祉施設が核となる地域における6次産業化の仕組みを構築してきました。

おこしてきた様々な仕事には、障害のある人達や引きこもりメンバーの特性に適応した作業がたくさんあります。特に精神障害の人達にとっては、農業分野への就労は現場の工夫が要りますが大きな可能性があると感じています。6次産業は多額の収益は出ませんが、地域農業を守ると共に食糧自給率の向上にもつながり、国を挙げて取り組むべき重要な業種だと考えています。ご意見は色々あると思いますが、企業や一般事業者では採算が合わなくて出来ない事業も、社会的に必要なものは、社会福祉法人を活用して事業展開をしていきたいと考えています。

事業を発展拡大させていく為には、経営の実務ができる専門家が 필요합니다。福祉職員が事業経営についてのスキルを蓄積していくことも重要です。しかし厳しい市場経済の中で生き残っていく為には、数値責任とリスクを背負いながら企業で管理職をやりきってきた、今後たくさん出てくる団塊世代の退職した人達の力をお借りしたいと考えています。そして福祉的配慮も必要なので福祉職員も係わり、福祉と経営の2つの専門性を兼ね揃えた社会的企業をおこし、生活困窮者が排除されることのない共助の地域社会を実現させていきたいと念願しています。

## もくじ

- P1 「生活困窮にある人達の就労支援について」
- P2 シリーズセンター長だより ⑪ / 「第2回 命をまもるメッセージ ～生きるを支える～」 大募集!
- P3 第9回 精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会 / 講演会開催のお知らせ
- P4 わかやまこころのフェスティバル2012 / 和歌山県精神保健福祉協会会長表彰式 / 「ほっとする 笑顔つながるこころの絵」入賞者表彰式
- P5 和歌山メンタルヘルスニュース / 開催報告 / 研修会案内 保健衛生(保健予防) 功労に対する知事感謝状贈呈
- P6 はーとふるネットワーク / グループ活動紹介 / 編集後記

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ「和歌山ビッグ愛」2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/050301/>

# シリーズ センター長たより ⑫

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野 善郎

## ハリケーン “サンディ”

11月3日（土）にニューヨーク市の郊外、ホワイトプレーンズという町で講演をしてきました。今回は「スペシャルニーズを持つ子供達と家族の会Apple Time」が主催し、邦人医療支援ネットワーク（JAMSNET）が共催する、ニューヨーク在住の日本人家族向けの講演会です。Apple Timeの代表Yさんが中心となって準備万端となった頃に、米国東海岸に巨大ハリケーン「サンディ」が襲来し、一転して講演会の開催も危ぶまれる状況になってしまいました。10月30日早朝にTさんから「Yさん宅の電気・電話がすべて使えなくなったので代わりに連絡します」とメールがあり、それから13時間の時差を跨いだ緊迫した情報交換が続けられました。空港も閉鎖になり、私自身もニューヨークにたどり着けるかどうか不安でしたが、最後は「小野先生がいらっしゃれば講演会は変更せずに行わせていただきたいと考えています。金曜日までにNYが復活していることを祈るのみです」というメールに励まされ、11月2日の飛行機でニューヨークに入りました。当日はまさに台風一過の晴天でした。予定していたYMCAの会議室は災害支援の仮事務所になり急遽体育館に移るというハプニングもありましたが、とにかく講演会を終えることができました。まだ停電が続いていたり一部の地下鉄が動かないなど、ハリケーン被害の影響は続いていましたが、講演会を決行したことで日本人コミュニティの連帯の強さを示す結果になったように思います。はらはらドキドキのニューヨークでしたが、あらためて人のつながりの大切さを実感した経験になりました。最後に、一日も早いNYの完全復活をお祈りしています。



## ●●●「第2回 命をまもるメッセージ ～生きるを支える～」大募集！●●●

普段の生活の中で、命の尊さについて感動したことなどを5・7・5の17文字のメッセージでつづって、こころの健康や自殺予防について考えてみませんか。

### 1. 内容

#### (1)対象者

県内に在住、または県内に通勤・通学している方

#### (2)規格

①命の大切さを伝えるメッセージであれば内容は自由です。

②5・7・5の17文字で表現してください。

③応募は未発表のもので、お一人3点までとします。

#### (3)募集期間

平成24年12月3日（月）～平成25年1月16日（水）

#### (4)応募方法

作品に氏名（ふりがな）、性別、年齢（学年）、住所、学校名（勤務先）、電話番号をご記入の上、下記の「命をまもるメッセージ」募集係あてにご応募ください。

#### ① 郵送の場合

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2  
ビッグ愛2階  
和歌山県精神保健福祉センター

② FAXの場合 073 (435) 5193

③ メールの場合 ※タイトルに「命をまもるメッセージ係」とご記入ください。

メールアドレス [e0503011@pref.wakayama.lg.jp](mailto:e0503011@pref.wakayama.lg.jp)

### 2. 賞

入選

10名程度（賞状・副賞5千円相当の図書カード）

※入選された方には平成25年2月上旬に文書にて連絡します。

### 3. 表彰

平成25年2月28日（木）精神保健福祉センターにおいて入選者への表彰を行う予定です。



## 第9回 精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会



11月1日 和歌山ビッグホールにて参加9チーム114人の選手、役員が集い白熱した試合が繰り広げられました。

ソフトバレーボール大会は精神障害のある人がスポーツを楽しみ、仲間と交流することによって、社会の障害者に対する理解を深め、精神障害者の社会参加を促進することを目指しています。

この日のために、各チームとも練習を積み、選手、役員が一丸となって最後まで諦めないゲームを展開しました。

決勝戦はひだかファイターズと町家カフェが熱戦の末、ひだかファイターズが勝利をおさめました。

### 参加チーム



**優勝** ひだかファイターズ（ワークステーションひだか）

準優勝 町家カフェルーキーズ（NPO法人 かたつむりの会）

3位 ブラックハーツ（県立こころの医療センター デイクア）

4位 Day Dor（和歌山市保健所）

DreamNOAPS（野上厚生総合病院 デイクア室  
・あすなる共同作業所）

オレンジハーツ（県立こころの医療センター デイクア）

GO!!GO!!さくら（地域活動支援センター 櫻）

やおきの風2012（社会福祉法人 やおき福祉会）

ちい・かあ・つう（御坊・日高地域生活支援センター）



## 講演会開催のお知らせ

### 【うつ病予防講演会】

社会構造が大きく変化している中、職場や家庭での対人関係やストレスに伴って生じるうつ病とはどんな病気なのでしょう。

精神科のクリニックで活躍されている医師による講演会です。関心のある方は、是非ご参加ください。

講演：うつ病の理解と治療

講師：けやきメンタルクリニック

院長 津河 大路 氏



日時：平成24年12月 8日（土）  
16:00～17:30（受付：15:30～）

場所：わかやまビッグ愛 9階  
（和歌山市手平2丁目1番2号）

定員：50名＜先着順＞（参加費無料）

### ※申込先・申込方法

電話またはFAXでお申し込みください。

和歌山県精神保健福祉センター

電話：073-435-5194

FAX：073-435-5193



### 【いのち・つながり・講演会】

栗田氏は、現在、和歌山県西牟婁郡において精神保健相談員として活躍されています。

地域のなかでは心の病で苦しんでいる方、「ひきこもり」の状態にある方、人間関係で思い悩む方、自殺未遂に追いこまれた方、大切な人を亡くされた方—様々な“生きづらさ”が身近にあります。

そうした“いきづらさ”に直面する方々とのこれまでの出会いの中で感じたこと、そして、「それでも、“生きる”を支えたい」思いについてお話していただきます。

①講演：“生きづらさ”と向きあう

～精神保健相談員としての地域活動から～

講師：栗田 直嗣 氏

②コンサート“心と音を響かせる”

ミュージックセラピーBAND ねこきっさ

日時：平成24年12月22日（土）  
10:00～12:00（受付：9:40～）

場所：わかやまビッグ愛 2階 201室  
（和歌山市手平2丁目1番2号）

対象：どなたでもご参加いただけます（参加費無料）

### ※問い合わせ・申し込み先

和歌山県精神保健福祉センター

電話：073-435-5194

FAX：073-435-5193

（※FAXの場合は氏名、電話番号を明記ください）  
☆一時保育（1歳～小学校2年生まで）を希望される方は、12月14日（金）までにご連絡ください。



# わかやまこころのフェスティバル 2012



今年も11月17日(土)18日(日)と和歌山ビッグホエールにてこころのフェスタ2012を開催しました。(ふれあい人権フェスタ・りいびるフェスタと同時開催)

17日は朝から悪天候に見舞われましたが、両日で8千人を超える参加者でにぎわいました。精神保健福祉センターではブース展示を行いこころに障害のある人に対する正しい理解と福祉の向上のための啓発に努めました。精神保健福祉関係団体や精神科病院のブースでも、当事者の方々の手芸品や野菜、果物などが並べられ、好調な売れ行きでした。

## 講演 「日本人のこころのしくみ」 講師 きたやま おさむ氏

きたやまおさむさんは2010年3月九州大学大学院教授を退官され、現在は複数の大学で客員教授を務める一方、臨床にも従事されています。そして、何といても世間ではあの「帰って来たヨッパライ」をはじめ数々のヒット曲を出しながらわずか9ヶ月で解散した伝説のバンド「フォーククルセダーズ」のメンバーとして知られています。

講演ではその解散の理由が「予想外にレコードが売れ、人気が出るにつれて、歌やメッセージを届ける相手が見えなくなり、コミュニケーションが成立しなくなったこと」であると明かされました。また、精神分析学の入り口として「無意識の構造」についてわかりやすく話され、心の無の部分(本音)に耳をかたむけ、問題行動や症状としてあらわす前に、ことばや色々な表現方法(文化活動・スポーツなど)で表現することが大切であると話されました。

## ●平成24年 和歌山県精神保健福祉協会長表彰式

永年、精神保健の推進に貢献された方、また精神障害者の社会復帰や自立支援に功績があった方々が協会長から表彰を受けました。



### 永年勤続功労者表彰 受賞者

西原 均 (県立こころの医療センター)  
井上 初代 (紀南こころの医療センター)

### 特別功労表彰受賞者

柏木 正 (中紀断酒会)  
堀越 克利 (紀北断酒会友綱)  
生駒 芳久 (県立こころの医療センター)  
(敬称略)

## ●「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」入賞者表彰式

見る人のこころをほっとさせたり、笑顔にさせるような絵で、こころの健康について考える機会を提供することを目的に絵の募集をしました。今年は64作品の応募があり、審査の結果7名の方の作品が入賞しました。また表彰式では審査委員長の志磨 隆先生から一人ひとりの作品の講評がありました。

### 入賞者の皆さん(敬称略)

最優秀賞	嶋本 節子	(和歌山市)
優秀賞	川上 眞子	(和歌山北高校3年)
入選	荒島 竜介	(和歌山市)
	久保 淑子	(和歌山市)
	榎本 春香	(和歌山市)
	角口 愛子	(和歌山市)
	竹本 富子	(白浜町)



開催報告

“ひきこもり” 支援従事者研修



「ひきこもり町おこしに発つ！～人口4千人の町 秋田県藤里町の実践・“制度の狭間” への挑戦」

9月14日（金）に和歌山ビッグ愛にて開催しました。藤里町社会福祉協議会 事務局長 菊池まゆみ氏に、藤里町で平成18年度からはじめたひきこもり支援の取り組みについて、発足の経過から現在の状況についてご報告していただきました。県内のひきこもり支援関係者等70名の参加があり、菊池氏の講演会の後には「和歌山での支援の可能性」をテーマに様々な意見、情報が取り交わされました。

「学校現場における緊急危機対応－事件・事故が生じた場合の心のケアのあり方」



11月7日（水）に和歌山ビッグ愛にて開催しました。学校の教員、精神保健福祉関連職員等、37名の参加がありました。和歌山県臨床心理士会 副会長 上野和久先生に学校現場で事件、事故が生じた場合に、児童生徒や保護者、教職員にどのような緊急支援が求められるかについて、具体的なポイント毎にご説明いただきました。参加者からは、「実際の場面をイメージして、対応のあり方を考える貴重な時間だった」等の感想が寄せられました。

研修案内

「アルコール依存症及び家族への支援」

日時：12月10日（月） 13:30～15:00  
場所：那智勝浦町体育文化会館  
講師：新阿武山クリニック  
ソーシャルワーカー 西川京子氏

「いま、思春期を問い直す～グレーゾーンにたつ子どもたち～」

日時：平成25年1月18日（金） 13:30～15:30  
場所：和歌山ビッグ愛 2階201会議室  
講師：千葉大学教育学部教授  
教育学博士 保坂亨氏

「子どものトラウマ－理解と対応－」



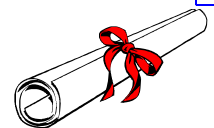
日時：12月12日（水） 13:30～15:30  
場所：和歌山ビッグ愛 2階201会議室  
講師：兵庫県こころのケアセンター  
精神科医 亀岡智美氏

「アルコール依存症学習会（一般向け）」

日時：12月10日（月） 10:00～12:00  
場所：那智勝浦町体育文化会館  
テーマ：「アルコール依存症と家族」  
講師：新阿武山クリニック  
ソーシャルワーカー 西川京子氏

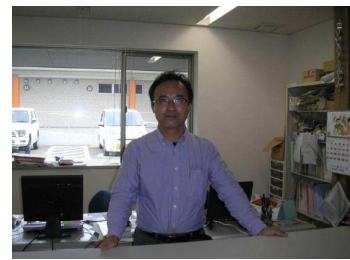
平成24年度 保健衛生（保健予防）功労に対する知事感謝状贈呈

被贈呈者 久村 静司氏（久村医院 院長）  
贈呈式 日時 平成24年11月27日（火）  
場所 ホテルアパローム紀の国



久村先生は診療所開設以来44年にわたり、地域のかかりつけ医として住民の心身の健康を第一に診療を行い、自立支援医療の精神通院医療に係る費用負担の公費負担の診断にも尽力されています。その功績に対しこの度、知事感謝状が贈呈されました。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。  
今回は、御坊・日高障害者総合相談センター 田中 達也さんです。



## はーとふるネットワーク



### ー相談支援専門員になられたきっかけは？

以前から施設入所者(知的障害者)の地域移行の生活の場としてのケアホームの開設や運營業務に携わってききましたが、相談支援事業所が設置されたことで、いっそう地域の障害者の方の生活を支えていくためにも、この業務を行っていくことになりました。

### ー障害者総合相談センターでは具体的にどのように支援を展開するのですか？

障害のある方、ご家族の方の様々な困りごとや悩み事をお聞きし、解決方法を一緒に探していきます。生活のこと、仕事のこと、人間関係、家族相談、制度の利用方法や手続きのことなど色々な相談について電話、来所、家庭・関係機関訪問、また一緒に同行するなどアウトリーチによる手法で支援していき、根気よくアプローチしていきます。

### ーこの仕事の魅力はどんなところですか？忘れられない出来事などありますか？

時間はかかっても、少しでも道が切り開けた時、利用者の方、家族の方といっしょに分ち合えるその喜びがこの仕事のやりがい、魅力につながっています。つい最近も、作業所通所から念願の就職ができたことと喜んでいて精神障害者の方の笑顔を見て嬉しかったです。

### ー苦労されることはどのようなことですか？失敗談などありますか？

利用者の方の希望する少ない中でのサービスなり職場等を調整していても、すぐに止めてしまったり、長続きしなかったりと。本人と一緒に職場見学をして気に入

って明日から体験といったとき、不安感から症状が悪化してすぐ入院となり、自分のせいにしたりして気持ちがおれそうになりました。

### ー気分転換はどのようにされますか？

家族(黒猫・雄2歳)と戯れること。自転車レース観戦(長澤まさみ・オダギリジョーのCMでおなじみのやつ)、気分転換になると言えばなりますが後で意気消沈、精神的ダメージを受ける事のほうが多いですけどね。

### ー御坊・日高障害者総合相談センターのPRを短くどうぞ。

当相談センターは障害者の方が気軽に立ち寄れる便利な場所に立地しており建物はオールバリアフリーで車椅子を使用している方でも気軽に来所いただけます。また10月から障害者虐待防止センター通報窓口にもなっています。

### ー今後の抱負を教えてください。

当圏域においては精神障害者の方の使えるサービスが不足しており、具体的なかたちが当相談センターから提案できればと思っています。

### ー次の方のご紹介とその方へメッセージをお願いします。

いつも連携してお世話になっている紀中障害者就業・生活支援センター「わーくねっと」の生活支援ワーカー西田純子さん。よろしく申し上げます。



## ●○グループ活動紹介○●



わかやまこころのフェスタ2012 ステージイベントで…  
地域活動支援センター櫻「アブロッサム」の皆さんによるジャンベ演奏のパワフルで楽しいパフォーマンスが繰り広げられました。ジャンベは西アフリカの楽器です。「アブロッサム」は2010年に音楽を通したリハビリ活動のチームとして結成されました。

## ◎編集後記

今年このころのフェスタの講演は、きたやまおさむさんでした。団塊世代には懐かしい歌とともに今も心に残るスターです。当時医大生にしてミュージシャンというのが珍しく、グループの解散から数年後、ロンドンの病院で研修中という情報に、是非立派なお医者さまになってもらいたいと思ったものです。ちなみにあまり知られていませんが、堺正章の「さらば恋人」は北山修の作詞です。

